

## 2022年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 コミュニケーションⅡ 講義	講 師	鈴木 八重子	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目3コマ)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・絵本のもつ可能性及び相反する力について理解する。絵本が子ども達に与える影響について多角的な視野から見つめることにより、批評力を体得する。(認定:「絵本のもつ力」なかむらしんいちろう)</li> <li>・心のケアが求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する(認定:「心に寄り添う絵本」細川幸世)</li> <li>・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティに学ぶ」近藤学)</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況(30%) 授業態度(30%) 提出物(20%) 発表(20%)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。</li> </ul>			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 コミュニケーションワーク(1)・短大科目取り組み			
	3 コミュニケーションワーク(2)・短大科目取り組み			
	4 就職とコミュニケーション(1)			
	5 学校行事の準備(1)			
	6 【認定絵本士養成講座科目】「心に寄り添う絵本」担当:細川幸世			
	7 コミュニケーションワーク(3)・短大科目取り組み			
	8 コミュニケーションワーク(4)・短大科目取り組み			
	9 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のもつ力」担当:なかむらしんいちろう			
	10 コミュニケーションワーク(5)・短大科目取り組み			
	11 学校行事への準備(2)			
	12 就職とコミュニケーションワーク(2)			
	13 コミュニケーションワーク(6)・短大科目取り組み			
	14 コミュニケーションワーク(7)・短大科目取り組み			
	15 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて			
	16 オリエンテーション			
	17 コミュニケーションワーク(8)・短大科目取り組み			
	18 コミュニケーションワーク(9)・短大科目取り組み			
	19 就職とコミュニケーション(3)			
	20 コミュニケーションワーク(10)・短大科目取り組み			
	21 【認定絵本士養成講座科目】「ホスピタリティに学ぶ」近藤学			
	22 コミュニケーションワーク(11)・短大科目取り組み			
	23 コミュニケーションワーク(12)・短大科目取り組み			
	24 コミュニケーションワーク(13)・短大科目取り組み			
	25 コミュニケーションワーク(14)・短大科目取り組み			
	26 コミュニケーションワーク(15)・短大科目取り組み			
	27 就職とコミュニケーション(4)			
	28 コミュニケーションワーク(16)・短大科目取り組み			
	29 コミュニケーションワーク(17)・短大科目取り組み			
	30 振り返り・進級に向けて			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	鈴木八重子:実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○細川幸世:絵本作家、絵本の研究者、相談機関等において絵本の読み聞かせの実践経験をもつ者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者など			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	子ども家庭支援論 必修 2単位 講義		講師	井上 恵理
授業概要	保育者は、子どもだけでなく、その子どもの家庭(保護者)を支援する役割も担っている。この科目は、子ども個人を理解する視点にとどまらず、家庭状況、家族の関係性に応じて、適切に介入をする為の理論や支援内容について学習する。近年特に問題となっている発達障害や虐待事例への対応方法についても理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。</li> <li>3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。</li> <li>4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	・保育者が行う子ども家庭支援の意義・目的を説明できる。 ・子育て家庭に対する一般的な支援制度・内容および、要保護児童や障害のある子どもとともにある家庭に対する支援制度・内容について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況(25%) + 提出物・授業態度(25%) + 試験(50%) = 合計(100%) 授業に出席し、授業中に伝える大事なポイントを記録し、提出物の期限を守りましょう。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義と並行して、演習的要素を適宜取り入れる。事例検討、グループワーク、視覚教材の視聴などを通して学生自身が家庭支援のあり方を主体的に考える。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども家庭支援の意義と必要性</li> <li>2 子ども家庭支援の目的と機能</li> <li>3 子ども家庭支援を行う保育者の心構え</li> <li>4 子ども家庭支援を行う保育者の心構え</li> <li>5 社会的養護が必要な子どもと家庭支援</li> <li>6 社会的養護が必要な子どもと家庭支援</li> <li>7 社会的養護が必要な子どもと家庭支援</li> <li>8 社会的養護が必要な子どもと家庭支援</li> <li>9 まとめ</li> <li>10 障害のある子どもと家庭支援</li> <li>11 障害のある子どもと家庭支援</li> <li>12 障害のある子どもと家庭支援</li> <li>13 障害のある子どもと家庭支援</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 試験</li> </ol>			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2021』西郷泰之・宮島清編著、中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもと保護者の発達相談等に応じてきた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 2単位 講義		講 師	前川 洋子
授業概要	・乳幼児期から高齢期の発達の特徴を捉え、子どもが育つ場としての家庭と保育・教育の場から初期経験の重要性と主な精神保健の課題について理解する。 ・育児不安の支援をはじめ多様な子育て家庭への支援及び特別な配慮を必要とする家庭への支援を学ぶ。			
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
到達目標1	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性と主な精神保健の課題等について理解し説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解し、親子関係や家族関係等について子どもの発達の観点から子どもとその家族を包括的に捉えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、レポート(30点)	
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 併修のレポート作成指導と科目試験対策を含む。			
授業計画	1 1. オリエンテーション 乳児期の発達特徴 心理社会的課題と危機 初期経験の重要性 2 2. 幼児期の発達特徴 心理社会的課題と危機 レポート作成1 3 3. 学童期の発達特徴 心理社会的課題と危機 4 4. 思春期から青年期の発達特徴 心理社会的課題と危機 5 5. 成人期から老年期の発達特徴 心理社会的課題と危機 6 6. 家族システムと家族発達 7 7. 子育ての場としての家庭と家族 8 8. 子育て環境の社会的状況の変化 レポート作成2 9 9. 子育て期のワークライフ・バランス 10 10. 多様な子育て家庭への支援 育児不安サポート 11 11. 特別な配慮を必要とする家庭への支援 12 12. 子どもを取り巻く生活環境 安全・事故防止と災害対応 13 13. 子どもの心と健康 14 14. 発達障害のある子どもの理解と対応 15 15. 総まとめ 科目試験			
必須テキスト	松本園子,堀口美智子 他,『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房, 2019年 『こどもの理解と相談支援』豊岡短期大学通信教育部配本テキスト			
参考文献	随時授業内で提示			
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『こども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他出版			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

## 2023年度 講義要綱

科目	子育て支援 必修 1単位 講義		講師	今泉 岳雄
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性・支援について、具体的に学んでいく。			
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの特性に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。</li> <li>2 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。</li> <li>3 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通して自分を知る。</li> <li>4 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援、支援のプロセス、エコマップの作成等について学ぶ。</li> <li>5 コミュニケーションのロールプレイ体験と保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。</li> <li>6 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。</li> <li>7 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。</li> <li>8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。</li> <li>9 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。</li> <li>10 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。</li> <li>11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。</li> <li>12 知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。</li> <li>13 分離不安障害、緘黙、強迫障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ。</li> <li>14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。</li> <li>15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。</li> </ol>			
必須テキスト	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介、配布			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、他出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

## 2022年度 講義要綱

科目	保育実習 I - 1 (保育)	必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	保育所において、90時間以上の実習を行い、現場職員の指導を受ける。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習態度、対象者の理解、職員としての資質の観点に基づく、現場職員及び実習指導授業担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について、説明できる。 保育の計画に基づいた観察、子どもとの関わりができ、子どもへの理解を深め、記録することができる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ①現場職員による保育実践を観察し、保育に参加することを通して、保育全般について知る。 ②子どもの観察、子どもとの関わりを通して、子どもに対する理解を深める。 ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける。</li> <li>2</li> <li>3</li> <li>4</li> <li>5</li> <li>6</li> <li>7</li> <li>8</li> <li>9</li> <li>10</li> <li>11</li> <li>12</li> <li>13</li> <li>14</li> <li>15</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	保育実習 I - 2 (施設)	必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 児童福祉施設、障害者支援施設の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や、子ども・利用者との関わりを通して対象者への理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、各現場の支援について総合的に理解する。 4. 現場における支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
到達目標1	1. 多様な福祉施設の役割と機能、支援者の業務内容、職業倫理について説明できる 2. 支援計画に基づいた観察、理解、関わりを深め、自ら考察して記録にできる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	保育実践演習 必修 2単位 演習	講師	遠藤 真司	
授業概要	保育現場に出た時に、子どもを保育する専門家としての知見を有し、技能を高めることを目標として、自身の興味あるテーマについて調べ、それをもとに自分の考えを明確に持ち発表を行う。受講生はそれをお互いに聞き合い、学び合い、保育現場に生かしていくようにする。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</li> <li>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。</li> <li>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</li> </ol>			
到達目標1	興味のあるテーマについて、調べたり、分析したりして、自分の考えを持ち、保育に関する物事に主体的に関わることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業に関する取り組み度(30点)、討論への貢献度(40点)、レポート(30点)	
到達目標2	自分で調べたテーマを他者にわかりやすく伝えると同時に、他者の発表を聞き、そこから学ぶ姿勢を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表内容、態度(30点)、他者の発表から学ぶ態度(30点)、レポート(40点)	
授業方法	グループ討論や個別指導を交え、自分が興味のあることについて調べ、自分の考えを持ち、発表をする演習中心の授業である。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これまで勉強をしてことをもとにして、自分の興味あるテーマをこれから深く調べて発表をするという、この授業の目的と全体計画を知らせる。</li> <li>2 自分が調べたいテーマは何なのか、自分が保育内容などから関心を持っているものを洗い出し、そこからテーマの候補を選ばせる。</li> <li>3 いくつか候補に出てきたテーマの中から、自分が追究していきたいものを受講者同士で対話をしながら明らかにして、一つに絞らせる。</li> <li>4 自分が決めたテーマをどのように深く研究し、自分の考えを明確に持つようにするか、その研究方法を考えさせる。</li> <li>5 テーマを決めて研究を進めている者については、内容を聞いて助言をする。研究方法がわからない者については個別に助言する。</li> <li>6 一人一人、どのように発表をしようとしているのか、その課題について助言する。</li> <li>7 いくつかのグループに分け、中間発表を行った人の内容について、各自で考えたことをもとに討論をして自分の考えに生かしていく。</li> <li>8 いくつかのグループに分け、中間発表を行った人の内容について、各自で考えたことをもとに討論をして自分の考えに生かしていく。</li> <li>9 中間発表で明らかになった自分の発表の成果は生かしつつ、課題についてはその改善を図っていく。</li> <li>10 発表に向けて、受講者一人一人の進捗状況を確認し、指導助言をする。</li> <li>11 発表に向けてのレジュメをいかにわかりやすく表現させるかの指導を行い、当日の発表の最終準備をさせる。</li> <li>12 自分の興味あるテーマについて発表をして、お互いにその内容について話し合い学ぶ。</li> <li>13 自分の興味あるテーマについて発表をして、お互いにその内容について話し合い学ぶ。</li> <li>14 自分の興味あるテーマについて発表をして、お互いにその内容について話し合い学ぶ。</li> <li>15 全15回の授業をふりかえり、ここから何を学び、それを保育現場にどう生かしていくかという自分の考えを明らかにしてまとめる。</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等	小学校現場の教員経験、管理職経験などを通して「国語教育」「学級経営」「学校マネジメント」を専門分野としている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %

## 2023年度 講義要綱

科目	子どもと遊び 選択必修 2単位 講義		講師	森 麻美
授業概要	①実際に身体を動かしながら多様な遊びを経験し、その展開方法を学ぶ ②保育現場を想定し、さまざまな遊びの考察を通して共感力と即興力を養う			
授業目標	①楽しく身体を動かしながら、表現力や他者との関わる力を高める ②子どもと共に遊びをデザインしていく過程を理解し、自ら遊びを構想する ③遊びの考察を繰り返すことで、遊びが子どもの育ちに深い関りがあることを理解する			
到達目標1	①子どもの遊びを見守る保育者には、共感力と即興力が重要であるということが説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	①レポート(30点)	
到達目標2	②自ら遊びをデザインし、その説明を簡潔にできる ③遊びには、運動効果や育つ力が含まれていることが理解できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	②授業への取り組み・リアクションペーパー (50点) ③リアクションペーパー (20点)	
授業方法	実技・グループワークを中心に授業を展開する 教科書を活用し、遊びの考察・構想をする			
授業計画	1 オリエンテーション・リズム遊び・手遊び 2 リズムたいそう・オニごっこ遊び 3 ふれあい遊びパート1 4 ふれあい遊びパート2 5 タオルあそび 6 昔話遊び・視覚的に楽しむ遊び(グループワーク) 7 多様な動きの引き出し方・遊びの組み立てポイントについて(オンライン) 8 ボールあそび 9 簡単にできる創作ダンス(グループワーク) 10 長縄あそび(グループワーク) 11 運動有能感・共感力・即興力について(オンライン) 12 短縄あそび(グループワーク) 13 バランスあそび 14 レポート作成・提出 15 リズムあそび・サークルワーク・振り返り			
必須テキスト	元気モリモリ森麻美の運動あそび(鈴木出版)			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」11年間幼稚園勤務後、キッズと親子のたいそう教室「AMINASTIC」を開業し代表を務める。現在10園(0～5歳児)で運動遊び講師を担当。また、全国で保育士研修会やイベントなどを通し、身体を動かす楽しさを伝え続けている。チャイルドカウンセラー。アスク・ミュージック所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	20% %

## 2023年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 1単位 講義		講 師	島村 憲子
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。			
授業目標	食べることは体への栄養と心への栄養となることを理解し、子どもが安心していられる場をつくることの必要を理解する。			
到達目標1	子どもの成長段階による食形態を正しく理解し、離乳食・幼児食が作れるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習への出席状況、実習態度、課題の提出(50点)	
到達目標2	子どもの食生活の問題について学び、改善するための食育について理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の課題の作成、提出(50点)	
授業方法	実習を通して子どもの栄養の大切さを理解する。			
授業計画	1 子どもの健康と食生活について 2 5大栄養素について 3 バランス献立の作成、栄養計算 4 乳汁期栄養について、調乳実習 5 離乳期栄養について 6 離乳食調理の基本(時期別形状離乳食) 7 離乳食実習(5、6ヵ月児、7、8ヵ月児) 8 離乳食実習(9～11ヵ月児、12～18ヵ月児) 9 幼児期栄養について 10 幼児食の献立作成、栄養計算 11 作成した献立での実習 12 保育所給食での間食実習 13 食育について 14 食育用の媒体物作り 15 まとめ・試験			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院(1年次に使用したもの)			
参考文献	その時々参考になるものを紹介			
担当教員の 専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関しての研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にしたの栄養相談。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2023年度 講義要綱

科目	保育教材研究		選択必修 2単位 講義	講師	なかむらしんいちろう
授業概要	【造形】これまで獲得した基礎力を活かし、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。「失敗を恐れず遊びのなかで創造力を養う子どもの造形活動」を体験する。現場活動を想定し、造形への理解を深め、指導力や表現力の幅を広げる。 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目5コマ)				
授業目標	【造形】子どもの創作活動を迫体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。 【認定絵本士養成講座科目】 「認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・書店における絵本の売り場づくりの特性について理解する(認定:「絵本と出会う④」) ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題) ・情報メディアとしての絵本の特性について理解する、絵本と著作権の関係について理解する、電子絵本と子供の脳の関係について理解する(認定:「絵本各論④」課題)				
到達目標1	毎回参加し、保育教材としての造形の学びを理解し、授業時間内に実践できる。<座学> 幼児の絵画造形を理解しレポートで説明できる。<実技> 多種多様な教材による造形技術を習得し、遊びを援助できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	真摯な授業参加(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない)+創意工夫(33点)+ 作品提出(作品を撮影しteams等に画像を提出、締切日厳守)+その他 ①周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等社会的マナー ③自己管理能力等(33点)=66点		
到達目標2	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。 【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。 34点		
授業方法	【造形】1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出) 【認定絵本士養成講座科目】講義形式				
授業計画	1 3/29~前提講義:講師挨拶、授業受講のルール・屋外活動:自然物で絵画制作 2 4/5~アルミホイル:粘土のように自由な形を作る 3 4/12~絵本総論(絵本とは何か) 課題あり 担当:中村 4 4/19~ボンドでオーナメント:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える 5 4/26~イラスト練習:季節の絵 6 5/10~フィンガーペイント 7 5/17~感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び 8 5/24~絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 課題あり 担当:中村 9 5/31~絵本と出会う④(書店での出会い) 担当:関本 10 6/7~絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ) 課題あり 担当:手塚 11 6/14~ レッジョの座学 12 7/5~光のアート 13 7/12~ お面 14 7/19~衣装 15 7/26~絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について) 課題あり 担当:中村				
必須テキスト	【造形】特になし【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	【造形】なかむら:絵本作家、イラストレーター 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本:書店における絵本の売り場づくり、および、絵本の出版流通に精通した者 ○なかむら:絵本をめぐる活動に精通した者/絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する/絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者 ○手塚:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	16 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	6 %	
	社会人としての基本	16 %	主体性 素直 思いやり	8 %	

	他者と関わる力	7 %	専門的知識・技術	47 %
--	---------	-----	----------	------

## 2022年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 1単位 講義		講師	菊池 一英
授業概要	子どもの遊びは生活そのものであることを学びます。また、様々な遊びを通して、保育実践力を身に付けます。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	1. 様々な身体表現遊びを経験し、子ども達の前で柔軟に対応できるようになる。 2. 実技とDVD視聴により、様々な遊びの指導方法を身に付けることができる。 3. 企画会議に参加し、独自の運動会を計画・立案する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技種目への貢献度(30%)企画会議への参加度(30%)出席率(40%)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	実技科目に参加する。運動会企画会議を立ち上げ、プレゼンテーションをする。			
授業計画	1 ふれあい遊びいろいろ(ラブラブ握手他) 2 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他) 3 野外遊びのいろいろ<お陽さまこどもクラブ実践DVD視聴> 4 身体表現としての手遊びいろいろ 5 野外での集団遊び(探検ビンゴ！) 6 集団遊びいろいろ(ワン、ニャン、プー仲間よ集まれ他) 7 独自の身体表現プレゼンテーション 8 水遊びいろいろ 9 身体表現まねっこ歩き(BGMに合わせて表現) 10 野外でのロープ遊びいろいろ<DVD視聴> 11 運動会に向けての企画会議(1) 12 運動会に向けての企画会議(2) 13 運動会に向けての企画会議(3) 14 運動会に向けての企画会議(4) 15 運動会に向けての企画会議(プレゼンテーション)			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅱ	選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要				
授業目標	1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。			
到達目標1		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法				
授業計画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の 専門分野等				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	保育実習Ⅲ	選択必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。			
到達目標1	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導Ⅱ		選択必修 1単位 講義	講師	今泉 良一
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む。</li> <li>・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う。</li> </ul>				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)</li> <li>・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。保育、教育の現場における絵本を用いた活動の取り組みについて理解する。(認定:「絵本と出会う②」今泉良一)</li> </ul>				
到達目標1	責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	指導案提出(50点) 提出物は期限を守ること。		
到達目標2	模擬保育の実践発表を行うことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育発表(50点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習(グループワーク)および実技・発表</li> <li>・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習</li> </ul> <p>※無断欠席不可 ※実習わくわくタイムの参加は必須とする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(保育実習Ⅱで求められるもの)</li> <li>2 保育実習Ⅰの振り返り、実習課題の検討</li> <li>3 模擬保育に向けて 指導計画立案</li> <li>4 模擬保育実践①</li> <li>5 全日指導計画立案練習</li> <li>6 模擬保育実践②</li> <li>7 主活動指導計画立案(製作活動)</li> <li>8 主活動指導計画立案(ゲーム、運動遊び)</li> <li>9 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:今泉良一</li> <li>10 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春</li> <li>11 オリエンテーションに向けて</li> <li>12 実習日誌の具体的な記入方法</li> <li>13 考察の視点と深め方</li> <li>14 実習前後のまとめ</li> <li>15 G2・G3合同 実習わくわくタイム</li> </ol>				
必須テキスト	保育実習指導Ⅰaで使用した『千春と大吾の保育実習ストーリー』萌文書林				
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。				
担当教員の専門分野等	<p>「実務経験のある教員による授業」に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』に記事を連載中。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○近藤千春:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上もつ者</li> <li>○今泉良一:保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者</li> </ul>				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導Ⅲ 選択必修 1単位 講義		講師	東郷 結香
授業概要	2年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にして準備を整える。			
授業目標	1. 施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について理解する 2. 対象の状態を適切に理解し、対応、関わり、支援計画の立案ができるよう学ぶ 3. 自らの課題を明確にする			
到達目標1	保育実習Ⅰについて整理し、他者に発表を通して伝えることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習報告(20点)、対象者の理解(30点)、支援特徴の整理(30点)	
到達目標2	保育実習Ⅲに向けた、自らの目標、課題の整理ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの目標、課題の言語化(20点)	
授業方法	・個々人の実習報告をもとにディスカッション、指導を行う ・各施設の現場の先生をお招きした講義や、現場見学等、体験的に学ぶ			
授業計画	1 授業概要、授業の進め方、目標、評価等の説明 2 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 3 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 4 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 5 自らの実習経験から、学びや課題を整理し、次の実習の準備へと繋げる 6 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 7 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 8 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 9 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 10 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 11 自らの実習経験を資料にまとめて発表する 他者の発表を聞き、経験を共有するなかで視野を広げる 12 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 13 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 14 保育実習Ⅲにむけた具体的準備を進める 15 実習準備の仕上げ。 実習への備えを万全なものとする。			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業内で適宜示す			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2023年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅢ 選択 2単位 講義	講 師	鈴木 八重子
授業概要	保育・福祉現場で働くことをイメージしながら、コミュニケーション方法について学び、協働の態度を養う。 認定絵本士養成講座を学び、絵本への理解を深める(該当2コマ)		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。</li> <li>・働く上で求められるコミュニケーション方法について自ら考えることができる。</li> <li>・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。(認定「絵本を紹介する技術①」飯田有美)</li> <li>・認定絵本士養成講座で習得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべきことを理解する。(認定「ディスカッション」鈴木八重子)</li> </ul>		
到達目標1	社会人として必要な常識をもって卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内プリント記入と提出30% 授業態度20%
到達目標2	短大のレポート作成、試験勉強、各認定絵本士科目の課題に自ら取り組むことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物50%
授業方法			
授業計画	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
必須テキスト	特に指定なし		
参考文献	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する ・鈴木八重子: 認定絵本士養成講座責任者 ・飯田有実: 図書館や学校等においてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者		
	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力
			10 %

この授業で 身につく 「6つの力」	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2023年度 講義要綱

科 目	ゼミナール I	選択 講義	講 師	佐藤 博美
授業概要	グローバル(広い視野)を持ち、未来の保育現場の多様性を理解し、それに対応できる保育士のスキルを身につける。 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目1コマ)			
授業目標	体験学習を通して、広い視野を持つことができる。 積極的な学びを通して、様々な考え方、文化、言葉に触れ、多様性を自分なりに説明する事ができる。 ・絵本の作り手の思いについて理解する(認定:「絵本が生まれる現場①」)			
到達目標1	いろいろな国の言葉や文化など、遊びを通して理解を深める。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)	
到達目標2	ゲストスピーカーや見学を通して、様々な保育や考え方を体験する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)	
授業方法	自分の興味のある国内、国外の文化や保育を調べ、インプットとアウトプットを行う事で学びを深める。			
授業計画	1 授業説明と本人の学びたいことを共有 2 海外絵本に触れる事で、それぞれの国の良さを理解する 3 異なる母国語による信頼関係や、コミュニケーションの可能性を探る 4 自分の興味のある言語による、得意な分野について絵本を作成する 5 自分の興味のある言語による、得意な分野について絵本を作成する 6 自分の興味のある言語による、得意な分野について絵本を作成する 7 製作絵本の発表 8 アメリカの保育について知る 9 ゲストスピーカーをお招きして、デンマークでの保育について講演を聴く 10 絵本が生まれる現場①第一回担当なかむらしんいちろう 11 絵本が生まれる現場①第二回なかむらしんいちろう 12 様々な国の保育について自分で調べる 13 様々な国の保育について調べた事をまとめる 14 自分で調べ、まとめた事を発表する 15 前期で学んだ事をふりかえり、後期への学びに活かす			
必須テキスト	なし			
参考文献	授業内で紹介 【認定絵本士養成講座授業】認定絵本士養成講座テキスト			
担当教員の 専門分野等	海外の保育園の勤務経験ある教員による授業 【認定絵本士養成講座科目】○なかむらしんいちろう:絵本作家、童話作家として豊富な経験をもつ者			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2023年度 講義要綱

科目	ゼミナール I		選択 講義	講師	東郷 結香
授業概要	保育士はとても職域の広い専門職です。沢山の現場で活躍ができます。保育所、学童クラブ、児童館、児童相談所、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児者入所施設、児童発達支援センター、医療的ケア児施設…等。多くの現場を知り、経験してみましょう。 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目1コマ)				
授業目標	1. 多くの現場に出向き、支援の実際に触れて、興味を持つ 2. 体験的に理解、考察し、自ら目指す支援者像を意識化する ・絵本の作り手の思いについて理解する(認定:「絵本が生まれる現場①」)				
到達目標1	多くの現場に出向き、支援の実際に触れ、興味を深めることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	活動プログラムの協議と組み立て(25点)、活動への参加(25点)		
到達目標2	体験的に理解、考察し、自ら目指す支援者像を意識化して、言語化できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	現場経験の発表(30点)、発表準備への取り組み姿勢(20点)		
授業方法	講義や各自発表もしますが、何よりも実際に多くの現場に見学等に出向き、様々な子ども達、支援者(保育士)の方々との出会いを通して、体験的に学んでいきます。				
授業計画	1 本コースにて何をどのように取り組むのか、みんなで協議して決めていきます 2 どこに行き何をしたいのか、自分自身の希望を主体的に考えます 3 具体的に準備していきましょう 4 具体的に準備していきましょう 5 具体的に準備していきましょう 6 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 7 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 8 現場から感じること、学んだことを整理していきましょう 9 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう 10 11 12 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 13 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 14 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 15 現場から感じること、学んだことを整理していきましょう				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜、授業内で紹介 【認定絵本士養成講座授業】認定絵本士養成講座テキスト				
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。 【認定絵本士養成講座科目】○なかむらしんいちろう:絵本作家、童話作家として豊富な経験をもつ者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2023年度 講義要綱

科目	ゼミナール I	選択 講義	講師	なかむらしんいちろう
授業概要	「おもちゃ」「自然あそび」をテーマに各自が自主的に研究活動等を行う。 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目1コマ)			
授業目標	1.おもちゃの特性を学ぶ。 2.自然あそびの特性を学ぶ。 3.実際の活動を通し理解を深める。 【認定絵本士養成講座科目】 ・絵本の作り手の思いについて理解する(認定:「絵本が生まれる現場①」課題 中村真一郎)			
到達目標1	<なかむら> おもちゃの意義や特徴を理解し説明し実践できる。 認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	おもちゃ制作への取り組み(22点) おもちゃ作品の提出(22点) teamsを使用 授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。(6点) 【絵本が生まれる現場①】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。	
到達目標2	<鎌水> 実習や現場で役立つ自然あそびを実施できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自然あそびへの取り組み(25点) 振り返りのレポートの提出(25点) teams	
授業方法	1.実技 2.座学 3.課題作成 4.施設見学・校外学習 5.大型遊具等の共同制作 6.レポート作成 ・事前に相談の上、連続(1,2,3限)で実施する場合があり、その場合、他の日の休講にして振り替える。			
授業計画	1 1.前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、おもちゃで遊ぶ:なかむら①3/27~ 2 4/3~ 3 3.おもちゃで遊ぶ:なかむら②4/10~ 4 4/17~ 5 4/24~ 6 5/8~自然あそび①:鎌水①②③ 7 5/15~ 8 グローバルコース食育保健コース合同授業「デンマーク保育」ゲスト講師5/22~ 9 自然あそび②:鎌水④⑤⑥5/29~ 10 【認定絵本士養成講座】「絵本が生まれる現場①」第1回 担当:中村真一郎 11 【認定絵本士養成講座】「絵本が生まれる現場①」第2回 担当:中村真一郎 *6/19~30まで幼稚園実習期間 12 自然あそび③:鎌水⑦⑧7/3~ 13 おもちゃ美術館見学(2回連続):引率 なかむら 7/10~ 14 7/17~ 15 7/24~			
必須テキスト	<なかむら、鎌水>特になし			
参考文献	【認定絵本士養成講座授業】認定絵本士養成講座テキスト			
担当教員の専門分野等	なかむらしんいちろう:イラストレーター、絵本作家 鎌水 愛:アウトドアファシリテーター、里暮らしむすびや まるけて主宰 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○中村:絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	30 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	30 %

## 2023年度 講義要綱

科目	ゼミナールⅠ		選択 講義	講師	中村 直美
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育や食育実践の計画立案、教材作成、発表、施設見学等を通して保健・食育分野への関心、理解を深める。</li> <li>・保育に生かす自然療法(アロマの基本・タッチケア等)を学ぶ。</li> <li>・【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目1コマ)</li> </ul>				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の場ですぐ実践できる保健・食育の知識を知ることができる。</li> <li>・自然療法の知識を学び、保育現場で生かすことができる。</li> <li>・絵本の作り手の思いについて理解する(認定:「絵本が生まれる現場①」)</li> </ul>				
到達目標1	・保育現場で必要な保健・食育・自然療法の知識を習得できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、課題提出・発表(20点)		
到達目標2	・【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、課題提出・発表(20点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義(基礎知識)→作業・準備(計画立案、教材作成等)→発表</li> <li>・自然療法の基礎知識は外部講師の方にお越し頂く予定です。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育に生かす自然療法の基本①</li> <li>3 保育に生かす自然療法の基本②</li> <li>4 保育に生かす自然療法の基本③</li> <li>5 【認定絵本士養成講座科目】「絵本が生まれる現場①」担当:なかむらしんいちろう</li> <li>6 保育に生かす自然療法の基本④</li> <li>7 保健だよりを作ってみよう①</li> <li>8 保健だよりを作ってみよう②</li> <li>9 保健だよりを作ってみよう③</li> <li>10 【認定絵本士養成講座】「絵本が生まれる現場①」第1回 担当:中村真一郎</li> <li>11 第11回【認定絵本士養成講座】「絵本が生まれる現場①」第2回 担当:中村真一郎</li> <li>12 食育①</li> <li>13 食育②</li> <li>14 食育③</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	必要時紹介、プリント等を配布予定。 【認定絵本士養成講座授業】認定絵本士養成講座テキスト				
担当教員の専門分野等	中村直美:看護師・保健師として長年、医療機関、保育所、保健所等で勤務。 【認定絵本士養成講座科目】○なかむらしんいちろう:絵本作家、童話作家として豊富な経験をもつ者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	30% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	20% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	ゼミナールⅡ	選択 講義	講師	佐藤 博美
授業概要	グローバル(広い視野)を持ち、未来の保育現場の多様性を理解し、それに対応できる保育士のスキルを身につける。			
授業目標	体験学習を通して、広い視野を持つことができる。 積極的な学びを通して、様々な考え方、文化、言葉に触れ、多様性を自分なりに説明する事ができる。			
到達目標1	いろいろな国の言葉や文化など、遊びを通して理解を深める。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)	
到達目標2	ゲストスピーカーや見学を通して、様々な保育や考え方を体験する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業の取り組み度(20点) + 課題(30点)	
授業方法	自分の興味のある国内、国外の文化や保育を調べ、インプットとアウトプットを行う事で学びを深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業説明と本人の学びたいことを共有</li> <li>2 複数の言語を使用する保育所の見学をする</li> <li>3 複数の言語を使用する保育所の見学をする</li> <li>4 複数の言語を使用する保育所の見学をする</li> <li>5 複数の言語を使用する保育所の見学をする</li> <li>6 文化と遊びの関係について考える</li> <li>7 自分の興味のあるSDGsについて調べる</li> <li>8 自分の調べたSDGsについてまとめる</li> <li>9 SDGsを子どもにどのように伝えるかを考える</li> <li>10 調べた事を発表し、お互いの発表を聴く事で、自分たちにできる事を考える</li> <li>11 日本の伝承あそびと現在のあそびについて考える</li> <li>12 ゲストスピーカーによる海外の遊びを経験する</li> <li>13 海外の遊びを調べ、発表する</li> <li>14 遊びについて文化との関係を考える</li> <li>15 広い視野を持つ事ができた事を確認し、今後の保育にどのように活かす事ができるか考える</li> </ol>			
必須テキスト	なし			
参考文献	授業内で紹介			
担当教員の専門分野等	海外の保育園の勤務経験ある教員による授業			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2023年度 講義要綱

科目	ゼミナールⅡ		選択 講義	講師	東郷 結香
授業概要	保育士はとても職域の広い専門職です。前期に、実際に体験した現場経験をもとに、さらに興味を広げ、深めていきましょう。多くの現場を知り、それぞれの現場の「違い」や、支援の「特徴」に気づきましょう。その中で自分自身の興味や適性について、考えていきます。				
授業目標	1. 各現場の「違い」や、支援の「特徴」を知る 2. そのうえで自らの興味や適性について、明確化していく				
到達目標1	・各現場の「違い」や、支援の「特徴」を言語化できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	発表内容(40点)		
到達目標2	自らの興味や適性について、明確化し、言語化できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自らの進路選択に対しての動き(30点)、自らの進路選択にあたる言語化(30点)		
授業方法	講義や各自発表もしますが、何よりも実際に多くの現場に見学等に出向き、様々な子ども達、支援者(保育士)の方々との出会いを通して、体験的に学んでいきます。				
授業計画	1 後期には何をどのように取り組むのか、みんなで協議して決めていきます 2 互いの状況を聞く中で、自らの状況や考えを整理 3 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう 4 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう 5 施設実習経験を振り返り、学んだことを整理、言語化して発表してみましょう 6 具体的に準備していきましょう 7 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 8 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 9 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 10 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 11 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 12 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 13 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 14 実際の現場に触れ、体験的に学んでいきます 15 現場から感じること、学んだことを整理していきます				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜、授業内で紹介				
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。各現場の人々や、そこで生じる事象について『解釈する』、フィールドワークが主な専門。児童養護施設や、障害児療育、心理臨床の場など様々な現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2023年度 講義要綱

科目	ゼミナールⅡ	選択 講義	講師	なかむらしんいちろう
授業概要	「おもちゃ」「自然あそび」をテーマに各自が自主的に研究活動等を行う。			
授業目標	1.おもちゃの特性を学ぶ。 2.自然あそびの特性を学ぶ。 3.実際の活動を通し理解を深める。			
到達目標1	<なかむら> おもちゃの意義や特徴を理解し説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	おもちゃ制作への取り組み(25点) おもちゃ作品の提出 (25点)teams	
到達目標2	<鍵水> 実習や現場で役立つ自然あそびを実施できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	自然あそびへの取り組み(25点) 振り返りのレポートの提出 (25点)teams	
授業方法	1.実技 2.座学 3.課題作成 4.施設見学・校外学習 5.大型遊具等の共同制作 6.レポート作成 ・事前に相談の上、連続で実施する場合があります、その場合、他の日の休講にして振り替える。			
授業計画	1 自然あそび①(2コマ連続):引率 鍵水①②(対面)*9月の1年生レクに合わせ 9/25~ 2 自然あそび①の振り返り:鍵水③ 10/2~ 3 オンライン週 10/9~ 4 サンシャイン水族館見学(2コマ連続):なかむら①②(対面)10/16~ 5 サンシャイン水族館手作りおもちゃ制作:なかむら③(対面)10/23~ 6 10/30~ 7 おもちゃで遊ぶ①:なかむら④(対面)11/6~ 8 自然あそび②(2コマ連続):鍵水④⑤(対面)*11月の1年生レクに合わせ 11/13~ 9 自然あそび②の振り返り:鍵水⑥ オンライン週 11/20~ 10 おもちゃで遊ぶ②:なかむら⑤(対面) 11/27~ 11 おもちゃで遊ぶ③:なかむら⑥(対面) 12/4~ 12 おもちゃで遊ぶ④:なかむら⑦(対面)+おもちゃの1年間のまとめ 12/11~ 13 12/18~ 14 自然あそび③:鍵水⑦ 1/15~ 15 自然あそび③の振り返り:鍵水⑧+自然あそびの1年間のまとめ 1/22~			
必須テキスト	<なかむら・鍵水>特になし			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	なかむらしんいちろう:イラストレーター、絵本作家 鍵水 愛:アウトドアファシリテーター、里暮らしむすびや まるけて主宰			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	30 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	30 %

## 2023年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅡ		選択 講義	講 師	中村 直美
授業概要	・健康教育や食育実践の計画立案、教材作成、発表、施設見学等を通して保健・食育分野への関心、理解を深める。				
授業目標	・保育の場ですぐ実践できる保健・食育の知識・手法を知り実践できる。				
到達目標1	保育現場での健康教育を理解し、具体的な指導案を立案し実践することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)課題提出・発表(20点)		
到達目標2	保育現場での食育を理解し、具体的な指導案を立案し実践することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)課題提出・発表(20点)		
授業方法	・講義(基礎知識)→作業・準備(計画立案、教材作成等)→発表				
授業計画	1 オリエンテーション 2 保育の中の食育① 3 保育の中の食育②(食育教材制作) 4 保育の中の食育③ (食育教材作成) 5 . 保育の中の食育④ (教材発表) 6 保育の中の食育⑤ (教材発表) 7 健康教育①(保育の中での健康教育って何だろう?) 8 健康教育②(健康教育の実際～4, 5歳児向けの虫歯予防～) 9 健康教育③(健康教育の計画立案①) 10 健康教育④(健康教育の計画立案②) 11 健康教育⑤(発表) 12 健康教育⑥(発表) 13 子どものおやつ① 14 子どものおやつ② 15 まとめ				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	必要時紹介、プリント等を配布予定。				
担当教員の 専門分野等	看護師・保健師として長年、医療機関、保育所、保健所等で勤務。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	30% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	20% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	教育実習 外部実習	選択 4単位	講師	実習指導授業担当
授業概要	幼稚園において4週間の実習を行い、現場教職員の指導を受ける			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>・観察や幼児とのかかわりを通して幼児への理解を深める。</li> <li>・既習の教科目の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>・保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。</li> <li>・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について説明できる。</li> <li>・計画に基づいた内容、幼児とのかかわりができ、幼児への理解を深め、記録することができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	自己管理能力、実習態度、研究意欲、記録能力、保育技術能力の観点に基づく現場教職員及び実習担当講師による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	幼稚園教職員の指導の下、現場で実務経験をする。			
授業計画	1 ①現場教職員による保育実践を観察し保育に参加することを通して保育全般について知る ②幼児の観察、幼児とのかかわりを通して、幼児に対する理解を深める ③実習記録を作成し、現場教職員の指導を受ける。 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	教育実習指導Ⅱ		選択 1単位 講義	講師	鈴木 八重子
授業概要	講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意 方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学ぶ。				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な教材研究を行い、部分実習指導計画案の立案の仕方を理解する。</li> <li>・安全面と環境構成に留意した全日指導計画案の立案の仕方を理解する。</li> </ul>				
到達目標1	実習での観察や記録の仕方を理解し、指導計画を立てることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	全日実習指導案を提出期限を守っての提出50%		
到達目標2	立案した指導計画を実践するための教材研究や保育技術を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験30% 授業プリント記入内容と提出 20%		
授業方法	指導計画の立案、実践、振り返りを行う。またテキストや視聴覚教材を用いて環境構成、ねらいと教師の援助の読み取り等を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習Ⅱのねらいと内容の理解 責任実習に向けて自己課題の明確化</li> <li>2 教育実習目標の設定、実習関係必要書類の確認</li> <li>3 実習日誌振り返り(1) 子ども理解と子どもへの援助</li> <li>4 実習日誌振り返り(2)教師の援助</li> <li>5 実習日誌振り返り(3)安全・衛生面と環境構成</li> <li>6 主活動の指導計画案立案(1)</li> <li>7 主活動の指導計画案立案(2)</li> <li>8 全日指導計画案立案(1)</li> <li>9 全日指導計画案立案(2)</li> <li>10 全日指導計画案立案(3)</li> <li>11 実習中のマナー、注意事項、連絡報告方法、健康管理の最終確認</li> <li>12 実習後の事務確認</li> <li>13 教育実習振り返り(1)</li> <li>14 教育実習振り返り(2)</li> <li>15 教育実習振り返り(3)</li> </ol>				
必須テキスト	『フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 『幼稚園教育要』				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

## 2023年度 講義要綱

科目	リズム・ダンスあそび	選択 1単位 講義	講師	笠井 千裕
授業概要	実技を通して身体を動かす楽しさを学びながら、保育現場での引き出しを増やす。他者と関わる力(コミュニケーション能力)を伸ばす。			
授業目標	リズムダンス遊びの楽しさを体感し、全身表現に対する苦手意識の軽減へ繋げる。幼児期に必要なプログラムを楽しく取り入れる実践力を習得する。			
到達目標1	リズムに慣れる。 恥ずかしがらず体を大きく使って表現出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	●授業への取り組み度(20点) ●笑顔での表現(10点) ●課題発表(20点)	
到達目標2	幼児の為のダンスが作ることが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	●幼児期に必要な動きの取入れ方(20点) ●子どもへの伝え方(15点) ●自分のアイデアを出し、仲間と意見交換できる(15点)	
授業方法	保育現場をイメージし、ポイントを伝えながら基本の動きから応用までを実践。各自動画撮影やメモを利用し次の授業に生かす。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス① 3 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス② 4 リズムあそび・リズムジャンプ、幼児向けダンス③ 5 幼児向けダンス④ 復習しながら子ども達への伝え方を考える 6 自分が教える立場になって一人ずつ実践 7 創作ダンスサンプル① 8 創作ダンスサンプル② 9 創作ダンスサンプル③ 10 復習 自分が教える立場になって一人ずつ実践 11 グループ創作① / グループ決め。テーマを決め曲を選ぶ 12 グループ創作② / 振付・練習 13 グループ創作③ / 振付・練習 14 グループ創作④ / 運動会発表など用に構成をつける 15 各グループごとに課題発表			
必須テキスト	特に指定無し			
参考文献	必要に応じて授業中に紹介します			
担当教員の 専門分野等	ダンスインストラクター 振付師 ダンスコミュニケーション教育			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	10% %

## 2023年度 講義要綱

科目	ピアノ I		選択 1単位 講義	講師	島内 亜津子、石原 奈保子、楠野 麻衣、国友 真知子
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより効果的に支援できる技術を養う。また教育実習でも使用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。引き続き豊岡短期大学のスクーリング試験対策も個別に行う。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、2年間学んだ子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫し、自分のレパートリー曲を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・本校編『はじめての弾き歌い』を中心に、コードネームによる簡易伴奏が即興的に出来る。(3曲以上)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(25点)、実技試験発表(25点)		
到達目標2	曲のねらいを理解し、大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	互いに伴奏し合う等のグループ演習への積極的参加度(25点)実技試験発表(25点)		
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。また教育実習に向けて実習園からの課題がある場合には優先的に講師に提示し、優先的に演習していく。				
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション(概要、達成目標、評価、次週の課題等の打合せ) 2 ピアノ等による個人レッスン 3 ピアノ等による個人レッスン 4 ピアノ等による個人レッスン 5 ピアノ等による個人レッスン 6 ピアノ等による個人レッスン 7 ピアノ等による個人レッスン 8 ピアノ等による個人レッスン 9 ピアノ等による個人レッスン 10 ピアノ等による個人レッスン 11 ピアノ等による個人レッスン 12 ピアノ等による個人レッスン 13 ピアノ等による個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいのおうた』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	ピアノⅡ		選択 1単位 講義	講師	
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく支援できる技術を養う。レパートリーを互いの伴奏で歌ったり、ねらいに相応しい導入やまとめ等も考えて演習する。また採用試験の各自の課題対策も行う。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・ト長調、ニ長調、ハ長調等、ハ長調以外の簡易伴奏のレパートリーをいつでも2～3曲弾き歌いすることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況・授業態度(25点)、実技試験(25点) 実技試験発表曲: 早めに担当講師と検討し、弾き歌い2曲(1曲はピアノ曲でもよい)を演奏する。		
到達目標2	曲のねらいを理解し、大きな明るい声、はっきりした言葉で表情豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	互いに伴奏し合う等のグループ演習への積極的参加度(25点)、実技試験発表(25点)		
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。個人レッスンとともに随時グループでの聞き合いや歌い合う演習も行う。また採用試験に音楽課題がある場合は各自で優先的に講師に相談し演習する。				
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	造形と絵画		選択 1単位 講義	講師	目黒 祥元
授業概要	1、2学年で学んだ造形技能をさらに発展、応用した実習。 ここでは、幼児造形の枠にとらわれないで、幼児造形では触れることの少ない画材や、1つの課題に時間をかけて取り組むなどの課題に取り組みます。				
授業目標	造形技能の応用力を養い、主体性を持った取り組みが出来るようになる。				
到達目標1	完成までの時間配分やプロセスを自分で計画できる。 使用教材の特性を見極め、今までに学んだ技能を応用し、幼児造形での使いこなしを提案できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	計画したプロセスの進捗状況を自分で管理できている。 (70点) はじめて使用するの画材においても、準備、使用、始末などを理解して、適切な使いこなしができています(20点) 作品の出来映え評価(10点)		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	全ての造形要素が入っているドールハウスの制作と日本画の岩絵具を使った絵画の実習授業。				
授業計画	<p>1 授業の進め方の説明。 ごっこ遊びを想定した(ドールハウス)制作準備。次回からの計画を立てる。 授業計画は状況により変更する場合があります。</p> <p>2 教材の配布。制作。</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10 アクリル絵の具で色をつける。</p> <p>11 アクリル絵の具で色をつける。</p> <p>12 総仕上げ。</p> <p>13 画材の説明、下描き準備など</p> <p>14 制作</p> <p>15 制作</p>				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の専門分野等	美術家。本稿においては資格試験の実技指導に当たる。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10点 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20点 %	
	社会人としての基本	10点 %	主体性 素直 思いやり	10点 %	
	他者と関わる力	10点 %	専門的知識・技術	40点 %	